

平成26年度 事業報告

第1 公益目的事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法並びに作詩法の研究指導機関としての役割を全うするために、広く吟道指導者を育成指導し、不特定多数の者に吟道の普及振興を図ることを目的として、以下の公益目的事業を行った。

1 吟道に関する研修会、講習会及び大会の開催

一 研修会・講習会

(1) 夏季吟道大学講座

詩歌吟詠法と作詩の理論と実技の指導のため、次のとおり夏季吟道大学講座を開催した。

平成26年8月23日(土)及び24日(日)の2日間

埼玉県川口市 川口総合文化センター

参加人員 827名

(2) 地区吟道講習会

詩歌吟詠に関する研鑽を深め、広く吟道を普及するため、次の地区が主体となって講習会を行った。

① 北海道地区

平成26年 5月11日(日) 北海道苫小牧市 苫小牧文化交流センター

② 東北地区

平成26年 7月20日(日) 宮城県仙台市 シルバーセンター

③ 北関東地区

平成27年 2月 1日(日) 群馬県前橋市 第二コミュニティセンター

④ 埼玉地区

平成27年 1月31日(土) 埼玉県川口市 並木公民館

⑤ 千葉・茨城地区

平成27年 2月 7日(土) 東京都文京区 日本吟道学院会館

⑥ 東京地区

平成27年 2月 1日(日) 東京都文京区 日本吟道学院会館

⑦ 神奈川・山梨地区

平成27年 2月15日(日) 神奈川県横浜市 神奈川区民センター

⑧ 北陸地区

平成26年 9月 7日(日) 富山県射水市 大門総合会館

⑨ 中部地区

平成26年 7月20日(日) 愛知県弥富市 総合福祉センター

⑩ 関西・中国地区

平成26年11月16日(日) 鳥取県米子市 米子公会堂

⑪ 東部九州地区

平成26年 5月18日(日) 福岡県北九州市小倉北区生涯学習総合センター

⑫ 西部九州地区

平成26年11月29日(土) 長崎県諫早市 本町ふれあい会館

⑬ 南部九州地区

平成26年10月26日(日) 鹿児島県鹿児島市 縣市町村自治会館

以上13地区の参加人員は、 延・1,059名

二 吟道に関する大会の開催

日頃の吟道精進の成果を披露し、他の人の吟詠を聞いて参考とし、更に広く一般の人々の吟詠に関する関心を高めることにより吟道の普及に資するため、下記の諸大会を開催した。

(1) 日本吟道全国大会

全国の会員を対象に、第64回日本吟道全国大会を行った。

平成26年5月25日(日) 群馬県前橋市 前橋市民会館

参加人員 1,016名

(2) 日本吟道青少年全国大会

幼少年及び青年を対象に、第50回日本吟道青少年全国大会を行った。

平成27年3月15日(日) 東京都豊島区 豊島区立南大塚ホール

参加人員 100名

(3) 日本吟道名吟大会

会員の中でもレベルの高い吟詠家を集めて発表することにより、会員の吟詠力の向上と、一般の人々に対する吟詠の普及を図ることを目的として、第18回日本吟道名吟大会を行った

平成27年1月25日(日) 東京都江戸川区 タワーホール船堀

参加人員 800名

(4) 日本吟道全国吟詠コンクール

全国各地域より選抜された会員による、第2回日本吟道全国吟詠コンクール決選大会を行った。

平成26年10月5日(日) 東京都板橋区 板橋区立文化会館

参加人員 695人

(5) 日本吟道壮心大会

65才以上を対象に、各地区が主体となって日本吟道壮心大会を行った。

2 吟道に関する普及活動への支援

吟道の普及活動を行うに当り、全体的に活性化された活動が行われるよう、人的、財政的支援を行った。

一 公認団体の吟道大会の支援

公認団体の周年行事に際して、本部からの指導者の派遣及び大会経費の一部助成等の支援を行った。

二 各地の敬老会、養護施設、学校その他への慰問・指導及び華のキャラバン等の支援

3 吟道に関する調査研究及び広報事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法並びに作詩法の研究・指導機関として、「新世紀における吟詠研究会」を中心とした研究活動を行うとともに、その成果等については広報誌等を通じて公表した。

一 吟道に関する調査研究

(1) 詩歌吟詠法及び作詩法に関する研究会

①新世紀の詩歌吟詠法及び作詩法に関し、吟詠研究会を行った。

平成26年 6月 1日(日) 東京都文京区 日本吟道会館

平成26年 9月21日(日) 同上

平成26年12月21日(日) 同上

平成27年 3月 8日(日) 同上

②その他の調査研究

その他、必要に応じて随時調査研究会を行った。

(2) 広報事業

不特定多数の人に吟詠を普及するため、吟道に関する各種資料、調査研究の成果等を公表するため、次の広報事業を行った。

①広報誌「日本吟道」の刊行

②詩歌吟詠に関する出版物の刊行

③ホームページによる広報活動

④その他、マスコミ、公共団体等を活用した広報活動

第2 収益事業等

公益目的事業を補完し、これを積極的に推進するため、次の収益事業及び共益事業を行った。

1 収益事業

一 吟道に関する教本及び教材並びに物品等の販売

二 段級位、伝位及び師範位の認定

(1) 吟詠の技術の向上に伴い、段級位、伝位の認定を行った。

(2) 指導技術の向上に伴い、師範位の認定を行った。

2 共益事業

主として本学院の会員を対象とする次の事業を行った。

一 功労者の顕彰及び表彰

(1) 吟道発展に寄与し、特に功労顕著な者に、冠称を贈り顕彰した。

(2) 吟道普及に功績のあった公認団体の代表者に対して感謝状を贈り表彰した。

(3) 吟道普及に功績のあった会員を褒賞した。

(4) 吟道普及に功績のあった公認団体を表彰した。

(5) 永年にわたり吟道を研鑽した高齢者を表彰した。

(6) その他、随時、吟道普及に功績のあった会員を表彰した。

二 正会員吟道大会

正会員を対象として、総会開催時に正会員吟道大会を開催した。

平成26年6月14日(土) 東京都千代田区 主婦会館
参加人員 120名

三 新春賀詞交歓会

平成27年1月11日(日) 東京都文京区 日本吟道会館
参加人員 120名

3 その他、目的を達成するために必要な事業

一 記録の制作と保存

本学院の事業等に関する吟詠等を記録及び保存した。

二 (公財)日本吟剣詩舞振興会主催の全国吟詠コンクールに参加した。

平成26年11月9日(日) 東京都千代田区 日本武道館

三 その他、目的を達成するために必要な事業を行った。